

東武鉄道「初代・蒲生駅」と千住馬車鉄道・草加馬車鉄道「三軒屋停留所」 令和6年(2024)5月10日 秦野 秀明

今回、旧・埼玉郡蒲生村(注1)の東武鉄道「初代・蒲生駅」と千住馬車鉄道・草加馬車鉄道「三軒屋停留所」の位置に関して、「open-hinata」(注2)を使用し、

① 明治39年(1906)測図の「1/50000 粕壁」と「地理院地図」(注2)

② 明治13年(1880)測図の「迅速測図」と「地理院地図」(注2)

をそれぞれ照合した結果を発表する。

◎東武鉄道「初代・蒲生駅」

東武鉄道「初代・蒲生駅」の位置は、
明治39年(1906)測図の「1/50000 粕壁」(注2)に記載される、
現・越谷市南越谷1丁目・同2丁目・同3丁目・同4丁目の付近であったと推定できる。

東武鉄道「初代・蒲生駅」は、明治32年(1899)8月27日の同路線の開業より遅れること約4ヶ月後の同年12月20日に開業した。

その後、明治41年(1908)12月25日に、「初代・蒲生駅」より南南東へ約1.15kmの「現・蒲生駅」の位置に移転した。

◎千住馬車鉄道・草加馬車鉄道「三軒屋停留所」

千住馬車鉄道・草加馬車鉄道「三軒屋停留所」の位置は、
明治13年(1880)測図の「迅速測図」(注2)に記載がなく、
明治39年(1906)測図の「1/50000 粕壁」(注2)にも記載がない。

この事実は、千住馬車鉄道の部分開業が明治 26 年(1893)2 月 7 日であり、全線廃止が明治 30 年(1897)7 月 27 日のためである(注 3)。

同様に、草加馬車鉄道の全線開業が明治 31 年(1898)11 月 28 日であり、運行会社の解散が明治 33 年(1900)2 月 2 日のためでもある(注 3)。

しかしながら、本間 清利(1980)(注 4)には「明治天皇田植御覧の処」の碑などが建立されている地点が、千住馬車鉄道「三軒屋停留所」であった旨が記載されているため、現・越谷市南越谷 1 丁目 5 の東京都道・埼玉県道 49 号足立越谷線に沿った「南越谷一丁目自治会防災部防災倉庫」の東側付近であったと推定できる(注 5)。

注

(1)明治 22 年(1889)4 月 1 日施行「市制町村制」による村名。尚「近代の字地」として「三軒屋」は存在しない。

渡辺 隆喜(1977)『越谷市史 二 通史下』越谷市役所 pp.174-181

秦野 秀明(2020)「越谷地名大全 (明治 22 年 4 月 1 日まで)」『古志賀谷』NPO 法人越谷市郷土研究会 pp.55-71

http://koshigayahistory.org/201231_koshigaya_chimei_h_hatano.pdf

(2)「open-hinata」

<https://kenzkenz.xsrv.jp/open-hinata/open-hinata.htm>

(3)春日部市教育委員会 市史編さん室編(1984)『春日部市史別冊 千住馬車鉄道』春日部市長 pp.1-166

(4)本間 清利(s55)『越谷ふるさと散歩(下)』越谷市役所市史編さん室 pp.213-216

(5)「三軒屋停留所」の開業は、明治 29 年(1896)4 月以降であると推定できる。

前掲書(3)pp.123,124

「また、停車区域を従前の越ヶ谷町を大沢町に、蒲生村河岸を三軒屋に、武里村を大枝にそれぞれ変更している。

この千住茶釜橋～粕壁町旅客運賃改正は、明治二十九年四月に[中略]として認可された」



東武鉄道「初代・蒲生駅」

「大聖寺(大相模不動尊)(埼玉県越谷市相模町 6-442)」の「参詣道」である「不動道」に沿って設置された「参詣」のための駅でもあった。

出典：「open hinata」を加筆して引用



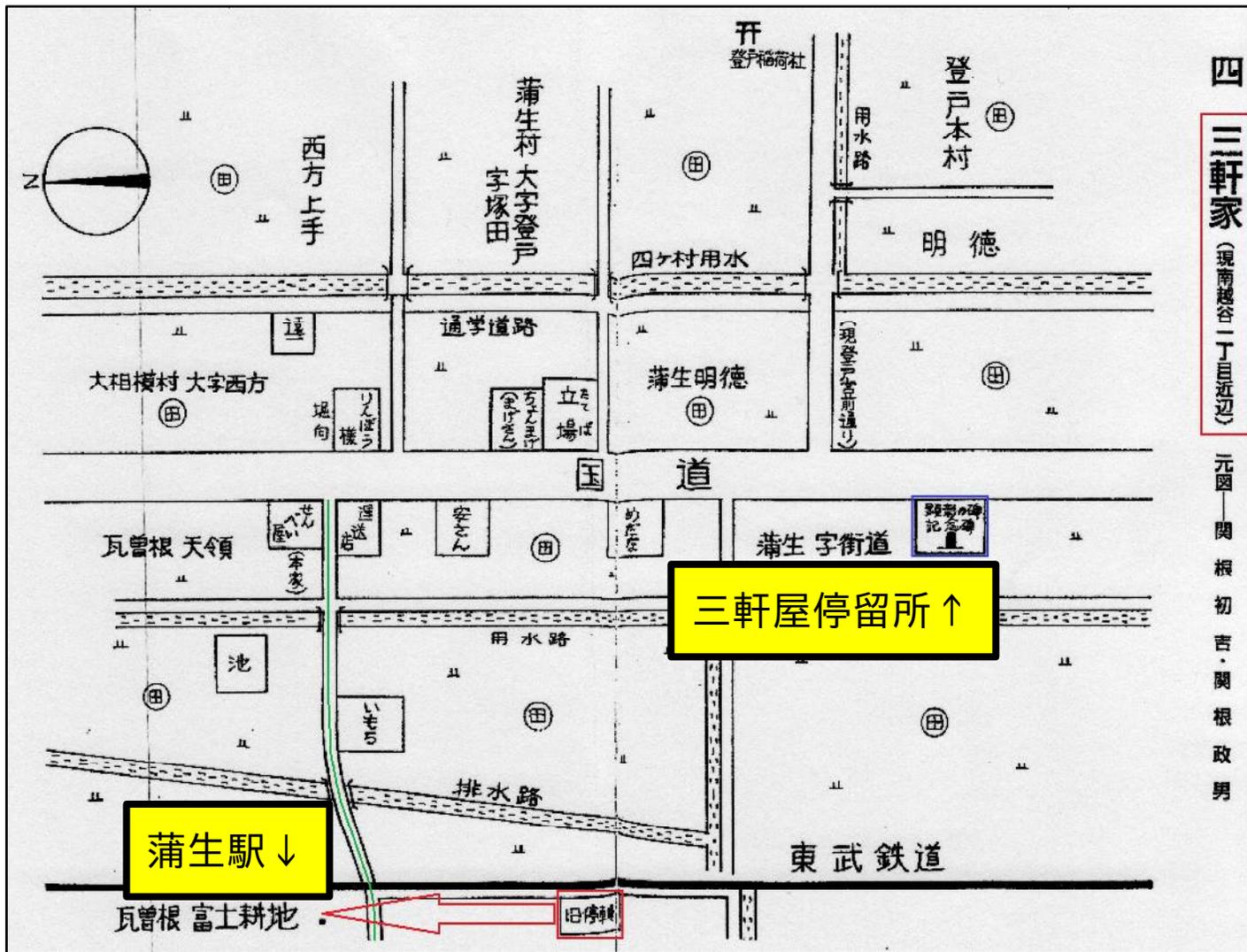
千住馬車鉄道・草加馬車鉄道「三軒屋停留所」

出典：「open hinata」を加筆して引用



千住馬車鉄道・草加馬車鉄道「三軒屋停留所」

出典：「open hinata」を加筆して引用



千住馬車鉄道・草加馬車鉄道「三軒屋停留所」
 出典：越谷市蒲生地区コミュニティ推進協議会編(1998)
 『ふるさと蒲生歴史ものがたり(上)』同 pp. 80, 81
 を加筆して引用

〈第22表〉千住馬車鉄道会社
千住茶釜橋～粕壁間旅客運賃改正表(明治29年)

区 間	距 離	1哩につき賃銭	賃 銭
千住茶釜橋～竹ノ塚 間	2哩20鎖4間	1銭8厘弱	4銭
竹ノ塚～草加 間	3哩11鎖7間	1銭6厘弱	5銭
草加～三軒屋 間	3哩13鎖6間	1銭9厘弱	6銭
三軒屋～大沢 間	1哩44鎖10間	1銭3厘弱	2銭
大沢～大枝 間	3哩27鎖6間	1銭8厘弱	6銭
大枝～粕壁 間	3哩40鎖	1銭7厘弱	6銭
千住茶釜橋～粕壁 間	17哩	1銭7厘弱	29銭

(備考) 千住馬車鉄道株式会社社長渡辺湜「旅客運賃改正御認可願」(明治29年4月15日)より作成。なお、賃率は1哩につき平均1銭7厘、小児の賃銭についての扱いは〈第14表〉に同じ。また、粕壁～杉戸間運賃については不変である。そして、停車区域に若干の変化がある。

123 第3章 千住馬車鉄道会社の経営動向

千住馬車鉄道「千住茶釜橋～粕壁間旅客運賃改正表」

出典：春日部市教育委員会 市史編さん室編(1984)

『春日部市史別冊 千住馬車鉄道』春日部市長 p.123

を加筆して引用



千住馬車鉄道・草加馬車鉄道「三軒屋停留所」推定地

撮影：2012年1月14日